長野県
屋代南高等学校　ファッションデザインコース

課題研究　北斎の作品をモチーフとしたファッション

小布施に残る北斎の作品について学ぶ

小布施　北斎館

曹洞宗　梅洞山　岩松院

長野県が誇る文化財のひとつ、小布施に残る北斎作品を学ぶため、北斎館では、学芸員の中山さんから、小布施と北斎の関わりについて、また小布施に伝わる作品についてのお話を、また岩松院さんでは、八方睨み鳳凰図についてのお話をお聞きしました。

江戸の浮世絵師、葛飾北斎（1760－1849）は、90 年の生涯で「冨嶽三十六景」をはじめ、多くの錦絵、絵手本、肉筆画などを残しました。天保 13 年（1842）、83 歳の北斎は初めて小布施を訪れました。きっかけは、幕府の天保の改革によって江戸で絵の制作が制限されたとも、地元の豪農・豪商高井鴻山（1806-1883）の招きに応じたとも言われています。

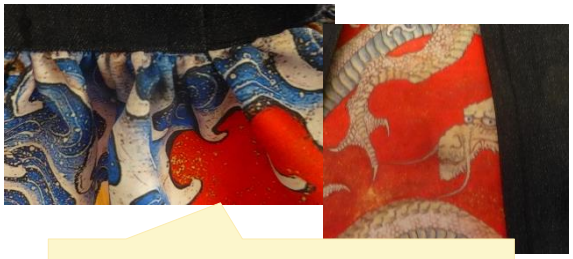
小布施では、鴻山の庇護を受け、アトリエともいうべき「碧漪軒」を与えられ、非常に恵まれた環境の中、北斎は大作を次々と残します。天保 15 年（1844）85 歳で東町祭屋台天井絵「龍」「鳳凰」を、翌弘化 2 年（1845）86 歳の時には上町祭屋台天井絵「男浪」「女浪」を手がけました。そして、弘化 4 年（1847）88 歳で岩松院本堂大間の天井絵「鳳凰図」を手がけました。年老いてなお、絵に対する情熱を絶やすことなく、自らの絵の進歩を願った北斎。北斎肉筆画の集大成が小布施で花開いたのです。

（一般財団法人　北斎館 HP より）

作品製作

波のプリントとチュールのフリルをふんだんに用いて、波の雄大さを表現しました。

スカートの間から覗く鳳凰のプリントがポイントです。赤いコートで力強さを出しました。



龍のプリントをデニムと合わせ、カジュアルで力強い作品に仕上げました。

龍のプリントと青海波のカットワークを組み合わせて、水を象徴的に表現しました。

チュールのフリルとベルベットを用いて、鳳凰の羽根を表現しています。

一般財団法人北斎館様のご協力をいただき、作品製作を行いました。